

サブワーキンググループ（向殿チーム）の検討の今後の方向性

令和元年 5 月 28 日

1 リスクアセスメント実施手法の共通化手法について

(1) 「リスクの見積もり」について

- ・向殿チームにおいて、「意図的なルール違反・ヒューマンエラーをリスクアセスメントに反映させる手法」を試行的に開発した。
- ・各業界団体を通じて、各事業場で、この手法の有効性や課題等を検証し、その検証結果を踏まえて、手法の見直しを行った。
- ・検証の結果、一定の効果・有効性が確認できたので、この手法を広く産業界でも活用してもらうことを目的に、6月に予定している製造業安全対策官民協議会で承認が得られれば、製造業安全対策官民協議会としてプレスリリースを行うこととする。

(2) 「残留リスク対策」について

- ・「①リスクレベルⅠの措置内容」及び「②リスクレベルⅣの措置内容」についての新たな提案を、昨年の向殿チームで検討した。
- ・上記①及び②の検討結果については、4月からの中災防のリスクアセスメントの研修テキストの改訂版に反映させるとともに、4月以降の中災防のリスクアセスメントの研修会に盛り込んでいる。

(3) リスクアセスメントの共通化手法の次のテーマの検討について

- ・次のテーマとして、「危険性又は有害性（ハザード）の特定」の検討を行うこととなった。

2 労働安全衛生マネジメントシステムの JIS 策定への関与

- ・向殿チームとして、日本版マネジメントシステム規格の JIS 策定委員会に提言を行い、JISQ 45100（昨年 9 月 28 日に発行済み）に反映された。向殿チームとしての一定の役割は、成功裏に果たした。

3 設備点検・補修、更新基準の共通化の検討について

- ・平成 30 年度に実施された高経年設備の調査分析の結果と必要な対策をまとめたリーフレットを協議会構成員に周知し、事業場での対策に活用していただく。
- ・平成 31 年度は、過去 2 年度に実施された調査結果を再整理し、設備点検・補修、更新基準の共通化について検討をおこなう（協議会構成員の協力を得て、厚生労働省の委託事業として実施。）

4 次期、全国産業安全衛生大会（京都）での発表について

- ・向殿チームで開発した、「意図的なルール違反・ヒューマンエラーをリスクアセスメントに反映させる手法」を、検証結果とともに、発表する。
- ・設備点検・補修、更新基準の共通化の検討状況を発表する。